

単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善（例）

【学 年】 小学校第 5 学年

【単元名】 「ラダーコートサッカー」 (E ボール運動 ア ゴール型) (8 時間扱い)

【育成する資質・能力】

〔知識及び技能〕	〔思考力, 判断力, 表現力等〕	〔学びに向かう力・人間性等〕
ボール操作とボールを持たないときの動きによって、簡易化されたゲームをすること。	ルールを工夫したり, 自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに, 自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。	運動に積極的に取り組み, ルールを守り助け合って運動をしたり, 勝敗を受け入れたり, 仲間の考えや取組を認めたり, 場や用具の安全に気を配ったりすること。

【主な学習活動と留意点】

前単元からのつながり：ダブルゴールサッカーに取り組み, 2 人でパスを交換しながら守備者がいないタイミングでシュートをした。(小学校第 4 学年)

働かせる見方・考え方：ルールや作戦を工夫したり, 集団対集団の攻防によって仲間と力を合わせて競い合ったりする楽しさや喜びとともに体力の向上を果たす役割の視点から捉え, 自己の適性等に応じた多様な関わり方(する・みる・支える・知る)と関連付けること。

段階	学習活動 (時間)	留意点
はじめ	1 ラダーコートサッカーをやってみよう。(1)	<p>単元の学習の見通しをもつ場面</p> <p>☞ラダーコートサッカーのルールについて確認し, 児童の言葉で単元の目標を設定する。</p> <p>単元の目標：みんなでチャンスをつくり出し, フリーシュートを決めよう！</p>
	<p>【ねらい1】各ゾーンを守備の状況に注意しながらフリーで前へ進めたり, シュートしたりする。</p> <p>2 スタートゾーンでは, どちらのゾーンへパスするといいか。(1)</p> <p>3 ラダーゾーン 1 からラダーゾーン 2 へどう攻めるか。(1)</p> <p>4 ラダーゾーン 2 やシュートゾーンはどう攻めるか。(1)</p>	<p>基礎基本の確実な習得を図る場面</p> <p>☞ゾーンごとに分けて攻め方について追究するように促す。</p> <p>☞ねらい 2 へのつながりを意識し, 「どこか？」⇒「なぜか？」⇒「こうしよう！」という流れで課題設定を行う。</p>
なか	<p>【ねらい2】ゲーム記録からチームの課題をつかみ, 解決の方法を話し合ったり, 練習したりすることを通してよりよい動き方を工夫できる。</p> <p>5 チームで問題点を解決するにはどうしたらよいか。(1)</p> <p>6 「前へのパスが守備者に取られる」場合には, どうしたらよいか。(1)</p>	<p>自他の学びや変容を自覚する場面</p> <p>☞問題解決に向けた話し合いとなるように, ゲーム記録および具体的な動き方を書き込める学習カードを準備して, チームの認識を共有できるようにする。</p> <p>☞課題を解決する動きをイメージできるように作戦ボードを操作したり, 実際にコートを使って動き方を練習したりするように促す。</p>
	<p>【ねらい3】学習してきたことを活かし, 連携したプレイからチャンス空間をつくり出しシュートへつなげることができる。</p> <p>7 リーグ戦で力を試そう。(2)</p>	<p>自己の学びや変容を自覚する場面</p> <p>☞単元の目標に着目し, 単元のはじめの姿と今の姿ではどのように成長したかゲーム記録やこれまでの学習カードへの記入などから考えて振り返るように促す。</p>
まとめ		

次単元へのつながり：スライドボールサッカーに取り組み, サイド空間などの有効空間を利用し, みんなでチャンスをつくり出し, フリーシュートをする。(小学校第 6 学年)